新板
續入

乃佛智慧之論

1.606
2

特
1606
2

郷土資料
郷土文庫

名物焼餅巻之二目録

一 箸を載く侍

附 伊勢の国白子のさくらはぶん
死骸脇の方に置かるる
御小性方の作仕

二 肉へへの客人へ

附 武士のことば[illegible]の[illegible]の桶義理へ
おもしいろもし切紙ぞ[illegible]よ
切腹の場もち御[illegible]

㊂ 女宗祇所作

附

袋中にそのつゝの出来一ふく
十文みいかとりつゝれいかをかり
袋まいりのてをまつの巾

㊃ おかへりの碁盤姫

附

入聟ハ小鞠三歩坊を件ゞ。ひすと
ものを親子への房枕囲碁と
妹ゞも笛ちらふさく

㊀ 箸を載く仕
勢列白みよ不動桜といふ名木を。称よ親子物智
力のいとしまぢ仕り。実に世間形次左つへ不沙腹商を
仕りしぢを武士のかとりたり家神。元を一家中のれさ
たとくかゝず。とそでに桜うの出耳に入ていつそ出るとも
ぼゝ先とかゝ。史記の物伝を傷醫のゝぐゝ。いざ
されて。腹商へ揚き妃あ孫ひと不美してたちふまて様
ひき妃のひまをうさやぐりしを。玄宗に酒さん為。俗よむ
称うけをこゝらへあり。元をこゝ先ゝそゝとゝ。やに
つゝて。祖り孫てを名の若年慢やたりし。形次左つゞ
不形腹商いうの高ねしや先ゝおゝてぢたゞ孫ゝうゝ

ぞ。とて。北海をは前より出されけり。非波寺いうか
れは見るやと情で何ぞ。はかれ小性中ゝさまへ白髪
浦の梅ハ只事ゝとも見さうなり此義いうかゝ
ねどらるゝぞは前分れかゝるぞとあり名れど。非波寺は不
思議の美絵を細を探りひとも及ど。古来ゝ
ありそうたるごとく。親者るよ古つかひ此これある中
よ此梅の事絵をかるを。酒一とせりひくよ仏力れ
ちりかくぬ絵を知で絵ゝ。ちゝとだうあゝ。
自然子細の由絵もそれ者ら。新和絵ゝうれひをゝと
れ。此絵は非波寺つかよ。此前もさゝゝをよだ
れうそれよつさの方ゝ変名かゝ。ひゝうけをるゝさ

を仕ゝ波ゝいうかゝ細ゝ横ゝ知ゝとれよゝのゝ
時。非波寺これを勿論ゝ。私ゝ服部の義をたゝ
されゝ。さゝたるゝすゝもれ発かゝ。亜那かゝ初年ゝ
けつけゝうひようけゝ。力藤のゝにかゝり。ゝ
さゝいうさねゝさゝかゝ仕ゝれさゝとゝす。ゝ
ての此ゝ。ねゝ。ゝとものゝし系かゝ。ゝかゝ
まゝゝの腹色を此絵ゝ。ゝ
ゝ小性中ゝ。ゝ
ゝゝ目ゝかれて非波寺つ肌をゝ仕ゝ
白ゝんゝのひようけゝ。ゝ
ゝれゝ。ゝ

と北浦お供をつと、和事よりよ紙名を書そくうつ。これを
いうのうゆくうわと、をのく〳〵靈をしうしを、う後さて八れ
ばをつ。ばをのの六千石成られど、身分はくしみ恵ををりで
ゐるるよ。ごがんみこと い御光の御名をひのようけて、を
ゐ御ばのく おつとしゆ四郎。ちごろりのて様式ゐう
おうれとれ感のわまりるごうくと。屋敷御前をこうせ
ばひ。今三百石しわう百、武者五のれが婚ありて、六百石
取の北浦を屋とおそぐされてさんけう。孫よかくまで身
をはくしひ。北浦ごんを屋れたちまをにめしおされてかれ
者よあいけうと、天方の寅郎をてし治ゆゆ右。邑じ
てひ北浦をつがり治うしべ。り間ひよお義をうしちさ

み食く地ちのれ恵御をれど。拾外の時脇ゆぐ。義女加藤
ト くのまようけさをどわぐ。たをくゆど。自身はう。約
夕の名をいそで記しを元の北恵をりつて書ふをさごくを
御屋と。新来ようまでを被ゆさして。彼ゆを北浦のうを
笠をのたをびかう実御ゆる作ふゆ。はうう来まを
御義をりてごうど。町人のをとく。くまでと寛恵をせびあ
れ財をを事。新作の義義よあやまりあをごうづう
をの恵をあをを。を代をしを国ゆ半メ多又八百貴多。
をを多よ意しを。ゆ。を市の恵人ようをどとゆどを
事。つを人ようまれゆう。賢人ひとくは今川家の家臣あ
をれ北浦を屋つ五の新老と為おう。孫百姓町人と安

ぢのちいよ水ぢうかゝ。法人伝神よねがいひさ〻北
南ゞ三つ方をとろこぶまきしそあやしそれ

㊁ 国へ入め客人
磯石紙漉新井吸だ大根地芋の葉力を考へ。天地禁好
のふこのわりて。人身をの法ぢうふおにゆり。ひさすれ船
合ありさされた大原松をつしつるい。一家中よおそさしし
たの実神ちあまりに附合うころ〻さ花の男ずいぶん
松浦をつといぢざて風俗もあるべきちびあよいうの事
ようやとうく浦とされ合て。年貢不接物ようしぬ
又松浦をつも人の法ざこ命ぢ。やりく仮初りもいよ男
命めゞ物ふ〻ちは松をつまゞ法〻うぬうこさ命ゞ

こうてこそふーざされ。あるれだ入視意ことしよものハ。
名別の家習少へうてこそ行ま物ようよ今変掃の浦ま。
名をるくうこうを埋こたるゐ物しいる醍ふさゞ〻
あげよしあとこよしりて浦を行大原松をつ。鳴門浜八
あ人水練の海士をいて。数日よさゞ〻わこりふの事おお
知て後ゞ〻あゞるまだてこうゐゞ〻れゞこと。指汐引汐つよ
くゞ大浦のこうだをあこさ法ゆ〻〻轟轟万力れ力光よ夜
どゞ大原も明ふもゞ。逆風してこそあこうける。御前こう
ハ名ようゞあげよしたびゞ〻地下に召されて。作法こそ
さうとハ雅楽ゆ方なこうは役義をゆりゞいいおくと
いふのこ命ちれおゞゞ。ゞ上松ざる事れ口行さゞふハ。

あん人、御役付りて。御役義練習仕りざるもの多く
ゐ仕ぶりと。役小屋ゐあん人、芝居桟敷ゐけるゑふ。野浦那波
右ゐ乗れとりて。たゐ板ちへやとりけるハ。御役義
の事ふつつく。ゑそうんはそまれしもの。これるこの志の
びて。私宅ゐまちへゑ。そこりとゑ人ゐてゐ役したゑ
ぐも。御同役中へいそう。ゐ宅ゐ。ゐぬ。この私ゐ役儀ゐ
ゐへゑ。ゐ私ゐふのう。板ちへ拝見して。日比石橋の板ゐ
いるゐ。ゐ私ゐそかくハやうゐ。ゐぐくと。ゐぐくく
思ゐ。ゐとりけるゐ。ゐのゐられ。役義よりきそとゐ。ゐ
なゐ。ゐくみもあるゐ。ゐもゐいでいけるゐ。ゐこゐ
御城下にゐとゑ。ゐ板ゐ。ゐゐ。ゐ同役

ゐ。ゐ人ハ。ゐ中ゐ。役とゐ。板ちへ。野浦ゐ。ゐ
いそぎゐる。野浦ハ私宅ゐ。ゐ門ゐふゐ。板ちへ。ゐ
ゐ。日比石橋れ。接拶ゐへ。ゐ。ゐ
ゐ。御役義の事ゐつゐ。ゐ。ゐ
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ

引あぐるに。はつさいなるて。轆轤の綱うけんずるとぞい
うこと。廣き浦の法なり。いかる石をはこぶもせ。その石を
大きさに。かの海人ども探をて。さくあるべきあるべき。綱
なしれたきなり。綱をそらへ。石のかうへより。あみ
めて。石ふりづけうるべくさあるべ。はい綱を。石ごろ綱乃内に
うけて。轆轤に巻せ。はよはつるもそく。綱を
繰つ。はじいて。はじいて。石ものく石ものく
こと。のるずられを附して。後入魂のん。
どぐ。ものまあ。武士一分立中ゆ。はのりてあいろ
ろうとと。はもりつくいくこと。とそうまだ

板をもつて。一こせをのもて。いつこを見今れ。
はは。係らのいれよい。巻の庭はき長本。のくを
ゆ。ろうとと。長居はそくよりおして。浦濱はゆり。
わろ工夫と。板屋をつぐ。ろおとう。直ば。石八
色いはんもは半。その利屋ていは。石いはもで。はが
ろべし。和く。後義と。わりはのはぐろそ
はよ。梅野浦と。梅板とは。はゆ。直て。後
ぐはは。ろいはまで。
いはみても。人づくく。が和て。紙くをふ。和板はは
いんで。板屋中くさ。一板の義はあるとと
ぐ。はは。屋はは。御義へのは
ぐ。はは。はは。はは。石ものさ

あぎて。ゆく〳〵ぐるまをとめられて。ゆくらかと
ゐねをいとれて。ゑハたれいあんがるまれるいあ
ぐるまを。ぐるまをとめられて。ゑのごとく。ゆくへを
やく石をしめぐらしそて。かとのごとくおそのえ。
石を縄をつあるく。ぐるまを引あまて。ゆゆトを
運じゐ。あ人ゐ書とゐるく。私ゐ陸ゐ。ゐ
よゐ。ゐ勢出ゐて御用ゐつくゐ。ゐ。ゐ南ゐ
ゐ馬が工夫とゐるせゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ
ゐゐるぐあ人ゐるて。ゐれゐゐるゐ。ゐ。ゐ。
ゐそ。ゐ馬ゐと。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ

よりまつ。おのく。かつらをりて。一通の所。ながめ。指南して。
うえんらの。ふ。ふ。ふ

これて四信代大事寄彩為御はまれ仕りしと感
品仕候と仕候。野浦殿方ハ千又十五ヨ役料。外
又人数指と知候。為ヨ大きろ役と仕候仕られぬ
御ヨ野浦ゞ事ハ。近年莫大のお野ふしくかろ弱
擬敵ヨ仕候仕られぬ。係大きろ事ハ。ひろ事うと
り参りつきて。居所ハ仕候仕られ。先ふ為のひ
とつく。殿ハ御寄陽へ所出。如の仕事ろ中をろ
ろ不日ハれ野浦ゞ行縁といひ。敬ねしいひかりろ仕
けどこるゞろ事と。法人事を拾ゞてろろやよ
くくろ思をもれろ人れひふとろわん。長所殿
ろつ。先ハ殿ろ三人半前ヨ仕候仕られ。

殿ハ殿為ハ。ひくろ。仕ろろゞ
御用ゞ殿れ所ふ。三人の事野浦一人と立仕ひ
くハ。異ゞ殿れ殿ろふ。万一家事有ゞ。
ろゞり。三人の為ふ殿殿ヨ仕ろ。殿ろよ
く仕去の。質扶西事の仕為事く。仕りれ為事。
仕人仕ろれ。奥ろりれ如ゞ所人のろろふろ
せ。事仕の見安ゞ仕りあゞろ。見ハ殿如ゞ仕ろ事して
ろつく。大事ろハ殿殿仕ろ。野浦ハ仕事ろ
事ろと法人ヨ拾事ろゞ。殿様ろ川ろひ殿
事仕し。殿ふ事ゞ粗人の中あり。家ふ野浦の母ろれ叔
又ヨ。事沢言殿ろ殿ハ。明逆ゞ知ろ考ろ

ゆゞ。ちゝ藤浪いとつゝ。つゝりしうち。松町通。爺や。車平如角
と不儀の。言葉。をして。こゝ。浮世。絵。変。及
ぶ。依。彼人。列。と。伝。ふ。居。ゆ。び。吟味。の。時。その。絶。跡。そ。て
ゝ。言。居。ハ。絵。角。一。言。ハ。及。ず。そ。うゝ。む。さ
て。ぞ。わ。り。ま。ら。ハ。ハ。下。彼人。古。市。深。左。文。車。平。ま。こ。物
いひ。の。ま。り。て。ま。言。居。ハ。行。わ。ま。と。。。居。ま。と。及。ず
ま。ま。ぶ。ん。ゆ。ゆ。孫。こ。れ。ま。一。た。幸。の。変。何。と。ゆ。ま。
ゝ。ぞ。う。ゝ。ま。去。いひ。ま。ま。ま。に。ま。ま。ハ。市。仕。重。ま。
彼。料。ゆ。ゝ。ぶ。ゝ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま

よ御家とゞ中間でいん仙庵こゝろ
仕ゐと。ゆとまる。扨も玄庵流の茶の手ゆゑ
拾次郎。ゆゑ。ゆゑ。実れ雅ふさらんとや。さてを
言ふ。こゝろ御あるんの色とゝ入ていとゝ中年。
能く吟味ゆゑ。ふ義沖の殿様。おとゝ
とゝ付きまして。茶変をさげの。是の趣
拾次郎。ゆゑ色々みと。ふてあるこれゝ趣
て色を言れ。まで言ゆ。大原拾次郎と同流といひ
金とて。うゝ。ふ御様。いつゝ。
ゆゑ。ふ人を。幸一の沖様。人ふ。て。法人の
んとゝ。ある。時ゝ。人ふ。ゆゑ。

ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。今ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
さて。ゆゑ。年田ゆゑ。時ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
むすゆゑて。その言細とゆゑに。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
て。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
とゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

四　打加へ　茶盤娘

開き。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

舟と共にまちまち。野浦形部左衛門南町巳の刻と勢ひつゝく。役者といひ数とといひ人数一家中の有様なれば役人もあり。きゝあつめ用人勘定方紙戸筆役山奉行郡奉行なんどに一門親類をはじめ家老侯間意和ふとゝく事ひ。第てこゝ紙屋左兵衛殿ゝ外ゝ格とゝ門ゝく教義せ一人ゝ加ゝ多美傳伝兵衛殿を主者。終りの形成方つが家の方病為中散とゝ茶法あり。是と玉中ゝ町人百性の所ゝ一ゝ見む。城ゝ人と御所ゝあまて形ゝ主とこゝそなゝうゝ者。さまざまこゝて仁者の形頃方ゝ為ゝかゝ役ゝつけゝ者ゝれゝこと。

ちくあがりて、あるうめ果て浦ハ海なり。那ゝ江新
山なり。町ゝ町なり。その所ゝ町なり。一人
おゝ十ゝ縁づく。寡かのみなり。あるいハ。あるとき。用ゆるハ
ものよりめくまれつゝ事なり。諸種御菓子を以て結
うかくいとすべづかれまじ。ものに一人十ゝ縁ともてら
さうゝとづく事。いろめる多と癒む程の
多自分のびゝ。一人百生ゝ。ものゝ
てもしらずうめ事なりけれバ。用ゆるハ
て事無親方屋年ものゝ
けゝあげ。ものゝ。今ゝ
まづ。ものゝ和歌これ

一等の役人どうらくいづまもうべゝ
てゝ。ものゝ。ものゝ金銀をもさがり
ものゝが業毛ゝ町人百姓の汗油をせうゝ事。
終ハてゝ。ゆゝ。べきや。微ゝ。ゝ者
ゝ。ゝ。命とうるい。智ある者ゝ歌ゝ
なり。ものゝ。ゝ。ものゝ。ゝ。ゝ
無して。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
百姓十七が女房。ものゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ふとあるべき世話をなるべき百姓の家をそこらて何て
給もなくさふ。御家老乃者ども堀ふなさるべきとの事
なんぜいの栗拾ありてかくの仕合ぞやとうら
やましがれたなり参。さうかくて百一ぱい色
ちがいなくなりつんと。同しおの高屋の八野
浦の四鉢まいり。ほんとうと十七の姉さ。酒
ふれ要女ようてんなくいろのろ和ようて出者ようを
しなかなくなくてとしまれへ。彼たちそこのうち
異乗の事なまじとぞなちがくのやうふりて
ちくつと。それがくの乗りたくあるとせ女ようと十七
が素女のうし姉と又者ゆへ。拙こてのぞみ
ふ

うくなるこあてこけたる。姉さを要女さて美女さて
くたさふ和ちがくうがくう。私高屋のを仕事をゆり
し和さて美女れ素女を姉と又者ゆへ。和ちがくを
やうう今ようを姉要女ようをあるくを一書の食様ちがくが
し。ゆをれふ及ばそのの面ちの面光姉とをくへなき
ぞくなりあるまとだ。九八人の高屋へくをふうう。
十七へは脱ひをうを濃をくを分へへ算也出てゆをて
をむ者こ。なのれくをれみちがくゆを我を遠なを孫
をくりて姉と者屋へつくをれるを。り来れる
をくをれりかくべしと。深くを美人紙ようて和を野浦
及へ美人へうか者をてへの人なくべくを分れ感ようを

[illegible]

[illegible]

[illegible]